



富竹中だより

甲府市立富竹中学校
学校だより第7号
令和3年10月29日
文責 菅谷 信

全国学力・学習状況調査の結果について



令和2年度は新型コロナウイルスの感染拡大による長い臨時休校のために中止されていた全国学力・学習状況調査が、本年度は2年ぶりに全国の小学6年生と中学3年生を対象として実施されました。本校でも3年生が、5月27日（木）に参加しました。

この調査は、教科に関する問題（国語・数学）と学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸問題等に関する質問紙調査に分かれています。教科に関する調査では、①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できることが望ましい知識・技能を問う問題、②知識・技能を活用する力や課題解決のための構想を立て、実践し評価改善する力を問う問題の2つを一体的に調査する内容となっています。この調査結果をもとに、本校の学力や学習状況を分析・把握し、各教科における成果や課題、生活状況の実態を明らかにすることで今後の指導の改善に役立てることを目的としています。

本年度は、2学期からこの結果を役立たせるため、文部科学省から8月末に結果が送付され、各教科担当が中心となって分析を行ってきました。また、この分析をもとに、富竹祭や新人戦の取組と並行して授業改善へ向けて取り組んでいるところです。つきましては、分析結果の概要を、取り急ぎお知らせいたします。3年生には個人票が配布されます。自己の結果を確認し、今後の学習に役立ててほしいと思います。1・2年生にも教科の授業改善や家庭学習の取組に生かしていくように活用していきます。

本校の状況

※「ほぼ同等」とは±5ポイントの範囲内にあることをいう

本校の平均正答率は、国語、数学ともに全国平均と「ほぼ同等」の範囲内ではありますが、どちらもやや上回る結果となりました。山梨県全体の結果は、国語が全国を上回り、数学が全国と同じレベルを示していますが、本校はどちらもそれをさらに上回っています。少しずつですが、これまでの学力向上への取り組みに成果があらわれてきたといえます。



質問紙調査では、ほぼ全国平均と同様な結果が見られています。生徒と教師との関係は良好ですし、各教科の授業に向かう生徒の姿勢も前向きです。また、数学については好きな生徒の割合が低い傾向でしたが、各教科共に将来役に立つ学習であることは認識しています。新型コロナウイルスの感染拡大による休校期間中も自ら計画的に学習を続け、規則正しい生活を送っていた生徒が、全国・県に比較して多かったという結果も出ています。学習に対する主体性や積極性が身につけてきたことが、落ち着いた学校生活の基盤となっているように思います。

ただ、スマホやコンピュータの使い方、テレビゲームに費やす時間の長さについての課題があることがあらためてわかりました。この点は、これからも家庭とのご協力をお願いしながら、引き続き取り組んでいく必要があるようです。

本校の主な成果と課題

★ 成果と課題

国 語



- 設問全体の正答率について、全国平均・県平均ともに上回っている。領域別に見たときも4つの領域のうち3つの領域において、全国平均・県平均ともに上回っている。
- 「書くこと」や「国語への関心・意欲・態度」という領域について、設問ごとのばらつきは見られるものの、全国平均を大幅に上回る正答率となっている。
- 「記述で問題に答える形式」について、本校では高い正答率となっている。特に「伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く」に関する正答率は特に高い。
- △「言語についての知識・理解・技能」に関する設問の「相手や場に応じて敬語を適切に使う」については全国平均・県平均と比べて低い正答率である。
- △「読むこと」に関する設問の「文章に表れているものの見方や考え方を捉え自分の考えをもつ」については、全国・県同様に他の設問と比べて低い正答率となっている。

★ 主な改善点

- ※「相手や場に応じて敬語を適切に使う」については、敬語に関する知識を整理して体系づける学習場面を設定するとともに人間関係の形成や維持における敬語のもつ働きを実感できるような言語活動を仕組む。
- ※「文章に表れているものの見方や考え方を捉え自分の考えをもつ」については、文学的な文章を読み、精査・解釈といった学習過程を通して理解したことなどを記録したり伝え合ったりする言語活動を行う場面を設定する。

★ 成果と課題

数 学



- 「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」の全領域で全国平均を上回った。特に「関数」「資料の活用」については、2.9ポイント全国平均より高い結果であり、全体としても全国平均を1.8ポイント上回る結果であった。
- 全国平均を大きく上回った項目は、「事象を数学的に解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することができる」ことを問う問題が+8.8ポイント、「データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる」ことを問う問題が+7.9ポイント、「問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる」ことを問う問題が+6.6ポイントであった。
- △大きな課題としては、無回答率の高さが挙げられる。全16問中半数以上の9問で全国を上回る無回答率であった。わからなくても何とかしようとする気持ちが弱く、「諦め感」が強いという状況がわかる。
- △最終問題の「ある条件下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現する問題」では、全国平均と比較して、正答率が3.4ポイント低く、無回答率が9.4ポイント高かった。図形の性質に関する基礎的な知識の理解が不十分であることが読み取れる。また、最終問題ということで、時間がなく深く考える時間が足りなかったり、その問題までたどり着けなかったりした可能性もある。

△1問目の「多項式どうしの減法の計算」の正答率が全国平均と比較して4.1ポイント低い。全体で全国平均を上回っているにもかかわらず、簡単な計算問題の正答率が低いということから、上位の生徒と下位の生徒の差が大きく開いている（分布図で見ると、いわゆる「2こぶラクダ」的な状況）からではないかと考えられる。

☆ 主な改善点

- ※急務なのは、下位の生徒の底上げである。数学に対する苦手意識から、問題を見る前から諦めてしまっていると思われる生徒も少なくない。特に数学はいわゆる「積み重ねの教科」であるため、既習事項の定着が不十分であると授業についていけない場面が多々出てくる。そこで、これまでも新しい単元に入る前に「準備テスト」を行い、この単元を学習するにあたって必要な予備知識等の振り返りを行ってきたが、単元の途中でもこまめに「振り返り」をしていきたいと考える。
- ※全体指導の中では十分な指導が困難な面もあるので、TTの有効活用や、新型コロナの影響でなかなか厳しい面もあるが、放課後などを活用した授業外での個別指導も検討しなくてはならない。本校独自の取り組みである『学力向上タイム』等も有効活用したい。
- ※高校入試も近づいてきているので、まずは、公立高校の後期入試の大問①と②（計算問題6題と各単元の基本問題6題の計12題で36点分）レベルの問題が確実に解けるよう、過去問題を中心に数多く取り組ませていき、1問でも多く正答できるように指導していきたい。

質問紙調査から見る本校生徒の主な特徴

質問紙調査は、学校や家庭における勉強や生活の様子について調査したものです。全部で69項目ありました。本校生徒の学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸問題などを表しています。主な特徴は次のとおりです。



☆ 家庭生活や学校生活について

- * 「朝食を毎日食べている」生徒は95%で、全国平均と比較してほぼ同等となっている。
- * 「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」生徒は85%で、全国平均を上回っている。また、「毎日、同じくらいの時刻に起きている」生徒は95%で、全国平均とほぼ同等である。
- * 「家で自分で計画を立てて勉強をしている（学校の授業の予習や復習を含む）」生徒は80%で、全国平均を大きく上回っている。
- * 「学校の授業以外に、1日当たり2時間以上勉強をしている」生徒は、休日には70%、平日には約半数おり、全国平均を大きく上回っている。
- * 「自分にはよいところがあると思う」「将来の夢や目標を持っている」「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている」生徒は、70%以上おり、全国平均とほぼ同等である。
- * 「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」の質問に、「きちんと守っている」と「守っている」と答えた生徒は55.6%で全国平均の67.9%を大きく下回っている。
- * 「普段（月曜日から金曜日）1日あたりどれくらいの時間、ゲームをしますか」の質問に対し、2時間以上と答えた生徒が63.5%で全国平均58.0%を上回っている。
- * 「1・2年のときの授業でICT機器をどの程度使用したか」の質問には、63.5%が月1回未満と答え、全国平均の30.7%と比較して大幅に使用頻度が少なくなっている。

☆ 質問紙からの改善点

*家庭学習について評価し、引き続き応援していく・

→家庭学習を計画的、継続的に行っている生徒が全国平均を上回っている。学力向上ノートに毎日取り組んでいる成果が現れていると思われる。今後も継続していきたい。

*携帯・スマートフォン・コンピュータの使い方について家庭と連携していく。

→テスト期間ごとにNo TV・ゲーム・スマホ Day を設定している。家庭と連携し継続していきたい。

*学習意欲を向上させる。

→授業改善を進め、見通し、振り返りを意識づけ、生徒が自ら課題を見つけ、問題解決できるように、動き出したくなる課題を与えられるよう努める。また、様々な学習場面にICTを活用していくことで、楽しくわかりやすい授業づくりを目指す。さらには、授業と家庭学習がリンクする学習内容の改善を図る。



*地域との連携を深め、地域に誇りを持ち地域の発展に寄与させる。

→地域の様々な活動に積極的に参加することで、地域での存在感を感じさせ、地域の一員であることを意識させる。自分の住むこの地域に誇りを持ち、世界へ向けて発信し、グローバルな視点で地域の発展に関与させていく。また、地域防災におけるそれぞれの役割を理解し、すすんで自助・共助の行動ができる生徒の育成を図る。

家庭へのお願い

*多くの子どもたちは、学校生活や家庭生活が安定している様子がうかがわれます。しかし、自信が持てないお子さんも多いようです。ご家庭での団らんが、心の支えになるかと思えます。また、生活習慣と、学力との関係は深いものです。生活リズムを整え、親子で規則正しい生活の実践を引き続きお願いしたいと思います。

*家庭学習は、習慣化されてきているようです。学習時間を確保し、効果的な学習内容に取り組めるよう、毎年配布している「家庭学習の手引き」を活用してご支援していただきたいと思えます。また、『No TV・ゲーム・スマホ Day』の取り組みをテスト前の学習強化週間中をお願いしているところですが、読書を好きなお子様も比較的多くいます。読書と学力にも深い関係があることがわかっています。取り組み期間中でなくても、スマホを置き、テレビを消して読書の時間を作っていただきたいと思えます。

*コロナ禍のため、地域の活動も中止あるいは縮小化されていますので、生徒が参加できる機会が減っています。参加可能な行事などがありましたら積極的に出席するようご指導ください。そのとき、できれば保護者の方も一緒に参加していただくとお子さんが地域と関わりやすくなると思えます。特に防災関連の取り組みにおいては、有事の際に中高生の力が大きな地域の支えになることを自覚させてください。地域に誇りを持ち、自分たちが将来この地域を守り、発展させていく精神を身につけさせたいと思えます。日常的に関われますようご協力をお願いします。

